ISSN 0388－5569
VOL. 15 No.2
（通巻44号）
1994. 8

Library News

山口大学附属図書館報

目次

山口大学図書館の現在・過去・未来 …… 1
新たな課題にむかって …… 3
アマスさんとモーシェドさん …… 4
工学部版図書館利用案内の作成 …… 9
本学関係教官寄贈図書 …… 10
平成６年度附属図書館関係各種委員会名簿 …… 11
人事異動・日誌 …… 12
「雑誌記事索引」ＣＤ－ＲＯＭ版 …… 13
お知らせ・お願い …… 8，9，13
平成５年度図書館統計表 …… 14

山口大学図書館の現在・過去・未来

板垣　忠

蔵書数107万冊、所蔵雑誌1万6千種、建物面積8,750㎡、職員総数33人、これが現在のわが山口大学図書館（本館）である。医学部分館、工学部分館を一緒にすれば、蔵書数は135万冊を越える。これは全国国立大学図書館のなかで13番目に位置しているといわれている。昭和24年の大学創設当時は、蔵書数は工学部分館を含めて18万冊であったから、45年間に8倍近くになった訳で、押しも押されぬ大図書館である。

大学創設後20年余りたった昭和45年には、念願の中央図書館が建設され、文字どおり総合大学たる山口大学の中核施設としての形を整えた。面積は、5,636㎡で、当時は大き過ぎるという声さえあった程、堂々たるものである。それまでは、各学部ごとの分館制をとっていたから、図書館は独立した部局の形を備えていなかった。それが中央図書館の建設により、名実ともに独立した部局となり、それとともに、図書館職員の意気大いにあがり、大学の中枢機関として大学を支えていくという気概が溢れてきた。この気概はその後も一貫して図書館職員の職務の原動力となっている。

その一つの現れが、昭和35年にはじまった本格的な夜間開館並びにその後の土曜閉庁に伴う土曜開館の際の勤務体制である。これらの時間外の業務は、国立大学の多くの図書館がその全部を時間外開館専任職員に頼っているのに対して、本学では時間外開館専任職員とともに定員内職員が常時各1名残り業務にたずさわっている。本学図書館職員の旺盛な使命感のなせるところであり、高く評価されてよかろう。

図書館職員の気概のもう一つの現れは図書館業務の電算化への取り組みである。本学図書館では、鋭意業務の電算化に取り組み、昭和56年8月の「山口大学情報処理センター」の発展的改組を契機として本格的に開発に着手した。以後、逐次、閲覧管理システム、雑誌管理システム、図書管理システム等と開発をすすめてきた。開発に当たっては、もちろんメーカーの指導もあったが、職員自らの手で開発したオリジナルなシステムもあり、しかも、それは、現場の業務に最もよくフィットしたもので、現在もなお活用されており、このことは今でも職員の誇りとなっている。このように、業務の電算化については鋭意システム開発に取り組み、時代にもまた他大学にも後れをとっていない、と確信している。そのほかにも、ＯＰＡＣの活用のための図書資料の遡及入力によるデータベース化にも力を入れてきた。

以上のように、本学図書館はこれまで館の内実を整え、機能の充実と高度化に努めてきたが、この方

向は今後も強化されることはあっても弱化されることはないはずである。ここで、その強化されるはずの機能充実の方向を考えてみたい。

その第一は、幸い平成５年度補正予算により学内ＬＡＮが敷設されたので、ＣＤ－ＲＯＭサーバを設置し、ＬＡＮを経由して、学内のすべての端末から居ながらにして学術情報の検索を可能にすることである。ＣＤ－ＲＯＭサーバの導入については、設置のためのコスト、稼働後のランニング・コストさらには利用できる学術情報の範囲等検討・解決を要する問題があるが、正確で迅速な学術情報の提供という図書館の機能を充実させるためには、可及的速やかに導入しなければならないであろう。

さらに、学内ＬＡＮの利用により、各研究室端末からのＯＰＡＣの利用や電子メール、電子ボードの導入が可能となり、図書館機能が飛躍的に高度化されることになる。もちろん、ＯＰＡＣの利用のためには、所蔵図書資料のデータベース化が先決問題であり（現時点で約45万冊入力済み）、全力で遡及入力をしていかなければならない。

学内ＬＡＮを利用すれば、学術情報センターが実施しているＮＡＣＳＩＳ－ＩＲ(※1)及びＩＬＬ(※2)システム、その他各大学・研究機関等のデータベースの活用が一段と促進される。研究者は各研究室端末から直接学術情報センターや他大学・研究機関等にアクセスすることが可能となり、必要な学術情報が直ちに入手できることになる。もちろん、図書館はそのための基盤の整備を迫られることになろう。

以上のように、学内ＬＡＮの整備・利用は図書館機能の充実と高度化という点では不可欠であり、速やかに稼働の基盤が確立されなければならない。以上のようにして、学内ＬＡＮの利用が開始されれば、少なくとも理系の研究者はわざわざ図書館まで足を運ばなくても必要な学術情報の入手ができることになる。したがって、理系研究者にとっては、図書館は学術情報流通の一つの中継点という意味しかもたなくなるかも知れない。しかし、図書館はそれに甘んじることは許されない。図書館にはほかに学術情報の収集、蓄積、保管という重要な機能があり、その機能の充実・強化に努めなければならない。特に、文系研究者にとってはそのことが緊要であり、図書館としてはこれまで以上にそのことを心懸けなければなるまい。

さらに、大学図書館は、学術情報の収集、保管、提供という三つの機能のほかに、学術情報の生産という機能を果たすことはできないであろうか。これまでは、図書館は、学術情報の直接の生産者である研究者の求めに応じていわば受動的に学術情報を収集し提供してきたが、今後は、研究者の求めに先んじて能動的に学術情報の収集と提供を行い、もって学術情報の生産の一翼を担うことを考える必要がありはしないだろうか。学術審議会学術情報資料分科会学術情報部会が報告「大学図書館機能の強化・高度化の推進について」において、大学図書館員の専門性の充実・強化の必要性を指摘し、図書館員は、基本的な知識、技能の上に、例えば情報処理技術や特定専門分野の主題知識などに関する専門性の育成に努めることが望まれる、とし、さらに、調査研究活動への積極的参加などを通じ、大学図書館員の研究、開発能力の育成を図るとともに、研究者とのより緊密な連携を進めることが必要である、としているのは、上のことと軌を一にしているものと思われる。この報告を受けて、先般開催された「第41回国立大学図書館協議会総会」において、図書館員の専門性の充実・強化をすすめるシステムを整備するための調査研究班を設置することと、協議会理事会において大学院生のLibrarian assistant制度について検討することが承認されたが、まさに当を得たことであり、その成果に期待するところ大である。時まさに大学改革、教育改革の真っただ中にある。本学においても、教養部を改組して、各学部がそれぞれの責任において教養教育と専門教育を一体化した一貫教育を行う体制づくりがすすめられている。各学部だけではなく全学的にみてもよりよい体制ができあがることが望まれるところであるが、その体制づくりに当たっては、本学が総合大学として発展を続けるという視点を堅持しておかなければならない。そして、現実に本学はその方向で発展していかなければならない。その際、本学図書館がそのための核としての役割を果たすことはできないであろうか。

そのためには、本学図書館は、徐々に、研究用図書資料のうち、少なくとも共同利用に適したものの集中をすすめて研究図書館としての機能を充実強化していく必要があるであろう。それにより総合大学の特性の一つである共同研究の体制が構築されることが期待される。こうして、本学図書館は本学における共同研究の拠点としての役割を果たしたいものである。山口大学図書館のさらなる充実の一つの方

向はこの点であろう。

それもこれも、本学図書館がハードの面とソフトの面の両方において十分な基盤を整備することによってはじめて可能である。その意味で、図書館の増築、情報通信機器の整備・充実、図書館資料費並びに運営費の増額、十分な職員の確保が是非とも必要である。関係各位の絶大なご理解とご支援を心からお願いする次第である。

（附属図書館長・経済学部教授）

※1. National Center for Science Information System -Information Retrieval Service

※2. Inter-Library Loan System

新たな課題にむかって

田 尻 英 雄

“分け入っても分け入っても青い山”この句は山口県が生んだ自然律俳人、種田山頭火が私の郷里のすぐ近くにある味取（みとり）観音堂（熊本県植木町）の堂守から、いよいよ一笠一鉢に身を託して漂泊の旅に出、山深い九州背梁の中で詠んだとされる名句のひとつである。私自身、この4月から山口大学に勤務し山と川に恵まれた自然豊かなこの地にすっかり溶け込んでしまっているが、山頭火出生の地である山口と出家の地である我が故郷とこのようにして結ばれている縁に今更ながら感慨を深くするものである。

さて、大学における情報基盤の整備が急速に進展する中で、大学図書館をめぐる状況の変化を踏まえ図書館機能の一層の強化・高度化が特に必要となってきているが、平成4年7月の学術審議会からの答申「21世紀を展望した学術研究の総合的推進方策について」を受け、学術審議会学術情報資料分科会学術情報部会は平成5年12月に「大学図書館機能の強化・高度化の推進について」（報告）を出し、この中で様々な提言をしており、そのいくつかについて大まかにご紹介をしてみたい。

まず学術情報システムにおける大学図書館の役割として、大学図書館は大学の教育・研究を支援する重要な基盤であり学術情報システムの主要な構成機関として、大学図書館と学内及び学外との連携協力、ネットワークと電子化情報の活用、新しいニーズへの対応などの視点のもとに広範な情報資源の有効利用を進めるための機能を強化・高度化していく必要があるとうたっている。さらに学術情報ネットワークを活用した大学図書館機能の充実として、大学において図書館は情報資源の拠点としてＣＤ－ＲＯＭやオンラインデータベース等電子媒体資料を学内ＬＡＮを積極的に活用し、情報資源の統合化を図り、ＩＬＬ（大学図書館間相互利用）システムの運用による学術文献の円滑な流通と迅速な提供体制を整え、情報ネットワークの接続による大学外の国内の学術研究機関との連携協力やそして国際学術研究機関との情報の提供や交換など図書館の積極的対応が求められているとしている。

次に図書館の基盤整備の問題として図書館資料の計画的収集を取り上げ、これらの収集にあたっては大学全体としての財政的支援がまず必要であり、図書館が計画的収集体制を確立し全学的調整機能を果たすとともに資料の重複や欠落を無くし、資源共有の見地から共同利用的学術図書・雑誌の配備、大型二次資料の整備、そして重点的収集として各大学で特色あるコレクションの形成をはかり、分担収集などいっそう推進の必要があると説いている。また図書館資料の効果的保存と利用について、増え続ける資料の保存スペースの確保がつねに重要な課題であるが、その確保には自ずと限界があり資料の集中管理、電動式書架の配置など効率的運用の方策が提言されている。最後に学習活動の場としての図書館機能の強化としては、学生に対し学習図書館機能の整備、つまりカリキュラムに対応した学生用図書や指定図書の充実があげられ、さらには留学生への積極的な資料の整備、地域社会・市民への公開、生涯学習への対応など社会人の円滑な受入れとサービス機能の拡充のためには時間外開館の延長や入退館システムの導入など、図書館の課題として今後におけるさらなる検討と機能の強化が求められているところである。

山口大学においても、平成5年度の補正予算で学内ＬＡＮの整備が行われ、これに平行して現在図書

館で稼働している単体（スタンドアロン型）によるＣＤ－ＲＯＭでの文献検索を情報処理センターのご協力を得ながら学内ＬＡＮに乗せ、研究室の端末から図書館のＣＤ－ＲＯＭサーバ（本体）に接続して学術文献情報（データ）を全学的に提供しようと計画を進めているところであるが、ＣＤ－ＲＯＭサーバ本体の設置費やその後のデータの更新及び維持管理費の捻出など財源の確保が肝心であり学内のコンセンサスを得るまでになお多くの時間が必要であると思われるが、各大学の状況をみると我が大学もぜひ早急にＣＤ－ＲＯＭサーバの設置を実現し学内ＬＡＮの有効活用をはかりたい。

前述の報告の中にも指摘されているが、本学では図書購入費はここ数年非常に逼迫しており新しい図書館資料の整備がなかなか困難であるのが現状であるが、機会をとらえて全学的に広くキャンペーンし、たとえば学内措置による図書館資料費の援助などの財政的支援をご賛同を得ながらお願いしたいと考えるものである。施設・設備面での構想として本館及び医学部・工学部の両分館から図書館入退館チェック装置（ブック・ディテクション・システム）の導入を、そして本館の増築3200㎡や医学部分館書庫の増築192㎡も計画として要望しているところである。図書館（本館）増築にあたっては電子図書館の機能を整備し、共同利用に適した資料を集中化し研究図書館的機能をもつことで資料の効率的運用がはかられ、学習図書館であると同時に研究図書館としてその役割を十分に発揮できるものであると思うものである。研究・教育を支援する機関としての図書館の活動に今後とも関係各位のご理解とご協力をお願いするものである。

（附属図書館事務部長）

アスマさんとモーシェドさん
―― 留学生に聞く ――

6月16日（木）、医学部分館の館長室を借りて、医学部分館吉野さんとともに、お二人の話を伺いましたが、アスマさんは、あでやかな民族衣装をつけて来て下さいました。

＊以下　Ａ）はアスマさん、Ｍ）モーシェドさん、Ｙ）吉野、［　］内は恩知（本館）

Ａ）私はアスマと申します。ベーゴム・アクタリ・アスマ、みんなはアスマといいます。

Ｍ）私は、モハメド・ゴラム・モーシェドといいます。1989年の10月宇部に来ました。90年3月31日まで研究生、90年4月から大学院生になって94年3月に卒業した。4月からいままで国際研究者として、仕事をしています。

［国際研究者って、どういう事をしますか？］

Ｍ）仕事は前の仕事と同じで、リサーチだけ。自分でテーマを決めてリサーチするとか先生と相談して、残ってる仕事を済ますとか、そういうふうな仕事。9月まで一応居ますからまだやっています。

［あなたのテーマの事伺っていいですか？］

Ｍ）最初来て、回帰熱ブレリアがあるね。回帰熱起こす菌、それと胃のガン、ヘリコベクタピロリ、胃の菌で新しい菌ね。まだ10年と経ってない。ちょうど10年。もうひとつは回帰熱起こす菌。ブレリアダットニという。そのふたつの菌がどうやって病気を起こすかとか。それの実験やってね。それについてこのまる5年で仕事したのを、6種類の欧文雑誌に8論文をプリントされました。

［一応まとまりましたか。ご研究は？］

Ｍ）一応大体まとまりました。でもまだ二つのテーマについて途中。まだやってます。9月に行く前の日もやらなければならない。研究はいつまでやってもまとまることはない。死ぬまでやってもやることはいっぱいある。

Ａ）私は、1990年6月2日、日本にバングラデシュから来ました。その時わたしは、何といいますか、house wife？ 奥さんで日本に来て、1991年4月から農学部で園芸学の加古舜治先生の教室に入りました。大学院博士課程に入りました。鳥取大学農学部連合大学院。いままだ大学院生博士3年生。私

は農学部で組織培養の研究しています。私の研究テーマは、蘭の花の細胞の分化。ひとつの細胞がどうやって分裂して大きくなるか、分裂して茎とか葉っぱとかになる、 differentiationといいます。それを研究しています。それで、私もう博士論文だしました。論文発表多分７月に。まだ日にち決めていません。その博士論文出す前に、ふたつレポートを「日本園芸雑誌」にacceptされました。蘭の花、シンビディアムの研究で。

Ｍ）日本でこの雑誌は有名です。

Ａ）わたしは微生物学の教授テルコ中澤先生から紹介してもらって、農学部へ入りました。９月に卒業して国に帰ります。わたしは宇部に住んでまして、毎日山口へ通ってます。

［山口の図書館の人もあなたのことはよく知ってます］

Ｍ）山口の図書館にわたしは２回くらい行ったことがある、２階の新聞読むところ。でも、ここの図書館（医学部分館）はというと、２番目の家みたいね。毎日２～３回かな。私は図書館に来ない日はないと思う、宇部に来てから。この図書館は大好き。ここに来て勉強とか、いろんな物読むとかしてると気持ちがよくなる。時々研究うまく行かないことあるでしょう。気分悪いとかね。その時仕事やめてこっちに来て本読んで、また頭ちょっと良くなるとかね。だから、この図書館すごく助かりました。私としては。他の留学生も同じ考え方と思う。一番お世話になったのはこの人（吉野さん）。ここにないものも１週間とかの間で外の所からとって来て貰って非常に助かった。論文書くため。で、私のいま云った回帰熱の病気ね。あれすっごく古い病気。200年も前ので、すごく問題あったね。何万人も何十万人も死んだ。ロシアとかアフリカとかそのあたりで。その菌は人の体にしか…ほかのところは住むことは出来ない。だからどんどん無くなりました。その仕事は昔のものを読まないといけないから、1800何年のとか、そういうものはなかなか見つけるのは難しい。だからそれを取ってもらった、外国からとかね。すごく難しかった。その論文一応、アメリカの衛生学の雑誌に載りました。

Ｙ）留学生の皆さんはね、いい論文が雑誌に載ると、見せてくれます。

［図書館として活きているね。その点から云うと山口の図書館はどうかな？］

Ａ）ウーン。私の場合、山口では園芸の何か必要があったら、大体みな園芸の部屋にありますから。山口の図書館はちょっと違うかな。ここと は。園芸のもの捜して図書館に行ったら「これは園芸の研究室にあります」…と。欲しい資料は、日本にあったらすぐ貰っていました。日本にあれば。外国のものはちょっと。それに、もうひとつはね。コンピュータのこと。わたしあんまり日本語うまくないから、コンピュータで何かサーチ、レポートとか雑誌どのくらいありますか、それを色々助けてもらった。山口の図書館で。

［自分の国に居るときも図書館を使ったでしょう？ そこはどういう具合でした？］

Ａ）学生時代から。でもちょっと違います。

Ｍ）私は大学に居るとき、図書館はここにいるときのようには使っていなかった。ほんというと。図書館がそんなに助かるものとは。小さいから（資料が？）無かった。だけど後で大学から出て、国際下痢研究所で仕事しました。バングラデシュにある下痢研究所。奥さんも一緒に仕事した。向こうで。そこの図書館は非常にいい。この図書館とよく似てる。

Ａ）システムがね。

Ｍ）この図書館とまったく同じシステム。似てる。だから図書館を使うのはそこから始まりました。図書館が好きになったのは。下痢研究所から。

［ゲリって云うのは？ あ、あのゲリ、ほう。下痢研究所ってのがあるの？］

Ｍ）国際下痢研究所。あれは非常に有名よ、あれは。英語でＩＣＤＤＲ，Ｂ。International Center for Diarrheal Disease Research, Bangladesh。そこは日本人もいっぱい働いてるよ。向こうで。日本からいつもお金頂いて立派な研究所作った。バングラデシュで。アメリカ、カナダ、ドイツとかイギリスとかいろんな国の人々集まってそこで仕事してる。そこで２人で、何年か仕事しました。そこからほんとは図書館の意味は解りました。でもうひとつこちらでいいpointは、コンピュータ・サーチ。自分

で調べる。向こうはそれは無かった。今は作ったろうけどね。そのときは無かった。私が居る間は。その時は、titleだけ上げたら向こうから送ってくれる。Medlineとか、そのcompanyからね。ひと月くらいはかかる。今は自分で調べて出来る。でもいまどんどんどんどん世界はすごく走っているでしょう。fast moving。

この図書館は私としては大好きな図書館というね。（しかし）問題は無いことはない。問題は私が考えてもある。…まだ問題もある。

［それも伺いたいことのひとつです。ご自由にどうぞ］

M）それはtextbookがあまり、up-to-dateのtextbookが無い。この図書館は。雑誌は非常にcollectionがある。新しい論文探したければ、どれでも山口大学医学部図書館にある。外部に全然頼まなくても、今日来てパッとある。でもtextbook調べるとね。textbook非常に古い。２階にある本とか。

あれ何10年前とかの本並んでる。それは多分あんまり助けにならないと思う。新しいtextbookあった方がいい。これが、一番目ね。２番目は、今は世界中にinternational network作ってるでしょう？ これも宇部山口大学医学部ではまだ始まってない。インターネットとかインテルとか色々あるでしょ。by netが。それがあれば、今日の結果を見れる。（現在のＣＤ－ＲＯＭでは）Medlineとか Current Contentsとか、そこに載せても３カ月あとに出てくるでしょ。それで古いものばかり見てる。前から考えると速い。でもいまを考えると遅い。それでちょっと先考えないと今はいけないみたい。それはすぐやった方がいいと思う。もうひとつは、（日本語でどう云うのかわからないが）、 reproductive section。例えば、研究室にあるfacilityが、私は大学院生だから何でも使える。普通の学生とかが発表したい時、そのためのスライド作るとかのためのfacilityがこっちはまだ。 reprographicとか。departmentにはある。（でも）図書館でお金払ってちょっとmachineが使えれば。学生用の。３年生でも院生でも。例えばアスタが学会がある。自分のスライド作る。図書館で本を見て文章を入れて、前のとか後のとか、どういうふうにやってとか。（例えば）ひとついい映画見つけたね。あの映画は私のスライドと一緒に見せれば簡単に発表できるとかね。そこですぐスライドに作ることが出来れば。それはここではまだ出来ない。それはあった方が助かる。先生達も助かる。今の方法はここから本借りて自分の方に持って行って、そこで作って、それからまた…。

A）もしこのfacility図書館の中にあったら、そんなに「めんどくさ」にならないね。早く出来ますように。

M）もうひとつの問題は、私の考えでは、ここの図書館「優しすぎ」の感じがある。それはどうしてかというと、紀要・雑誌来ましたでしょ。で、紀要を私もしかして欲しかったら15日の間貸して貰える。でも新しい雑誌は１カ月とかそのくらい置いておいて、見たいのだったらここで見てください。私に貸したらもうほかの人は見れない。私が借りても１時間くらいしか見ないかも知れない。だから新しい雑誌来ると１カ月誰にも貸さない、図書館に置いとく。そういうシステムだったらみんなのためにいいと思う。

Y）医学全般的な雑誌５～６種だけは、別置して１ヶ月間貸出禁止にしてあります。

［本館では最新刊は貸出しない。図書館で見る］

M）雑誌はどれが（最新刊か？）分からない。これ読んでバックを見たらね、これも読まなきゃいけない。１カ月あとに必ずもうひとつ出てくる。この図書館のよいのは、my feelingで、ジャーナル・ファイリング。あの並べてあるのはすごく便利。誰でも何時でも使えるでしょう。それでこの図書館で勉強することがある。すごくいい、ここは。私の友達工学部にいる。ここに来て、この図書館はいいな、何でも探せる。すごく便利。探すのが。それは多分並べ方もあるでしょう。

A）それで農学部の方は、私達留学生にとっては…日本の学生、例えば３年生、４年生、院生みんなは、先生達・教授が買って、たくさん図書館に本置いてあるから、－pamphlet,leaflet－も。仕事やりたいとすぐ出来る。しかし、私たち留学生はあまり日本語わからない。でも院生の時も両方languageがあるから（鳥取大学連合大学院生、日本語と英語）、例えば日本語は必ず勉強しなくても良いと思って英

語でします。日本の先生あまり英語では書かない。ひとつの実験、projectとか研究やりたい。その前にこれを読まないと実験をやることが出来ない。日本の先生の本いろんな事がいろんな本に入ってるから、私達それを英語になおすこともできない。英語のtextbook,pamphlet,leafletが外国からの留学生のために図書館に置いてあったら便利。

M）英語のtextbookね。

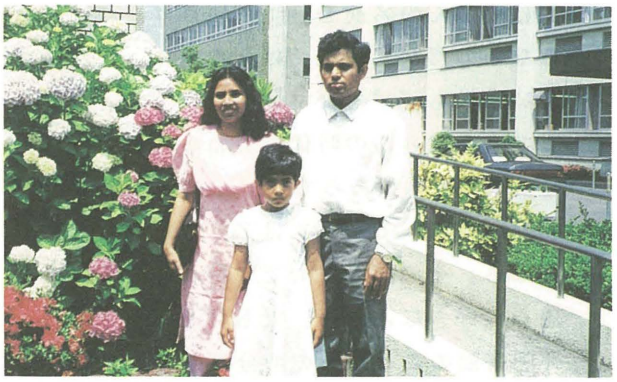
A）textbook,pamphlet,memoirとか、dictionary－英語の、留学生のための。あそこは留学生多いから。でもアメリカの大学イギリスの大学でそこの先生たちも日本の先生みたいにbasic researchのためleaflet,newsletter,textbook書いたのを売ってるから、それが図書館にあったら留学生のためにいいかな。今まで、どれくらいリサーチ、ときどきレターも出るでしょう。例えばシンビディアムの今までここからここまで研究やってる。それで英語の本もtextbookもあまりない。私何回も５階の古い本探した。textbookにもnew editionがあって、そのtextbook読まないと研究の中まで入れない。textbook知って、これはこういうメカニズムとか。雑誌見たら、あの人が実験やった、何結果が出た、それわかる。

M）textbookには正しいものが出るでしょう。これを見てjournalに来たら簡単になる。雑誌は一つのdetailしか書いてないが、textbookは、いろんな研究をまとめて書いてある。

A）先生とディスカッションしても、もうちょっと知りたいと思ってもね。

M）先生もすごく忙しいでしょう。なんか話したら、そのpointだけ。話したあとで、いつも先生にあれ何でしょ、これ何でしょって、先生も疲れる。学生も自分の勉強自分ですることね。

［textbookの点では医学部図書館はちょっと足りなかったが他の点では図書館があなたにとても役にたった、と］



M）立った、立った。

［なぜ日本にきたか、何故日本を留学先として選んだのですか？］

M）日本に来ることは、下痢研究所の仕事をするとき大学に入りましたね。今大学の先生。そのあとで　博士号をとらないと、先生としてはやっぱり。勉強したいので。私のやってる仕事の雑誌のpaper見て、同じsubjectのpaper見て、手紙を書いた。先生がhelpして上げますと云って、ここに来ました。ここに来た後でもうひとつscholarshipカナダから取った。そこはやめた。それは私バングラデシュ。カナダはニューファウンドランド。そこはものすごく寒い。それもひとつ恐い。それと生活。３人の生活のためにお金が要るでしょ。お金、向こうの少なかった。ここのはものすごく高かった。しかし一番の理由は研究。微生物の関係でやはり日本はいい仕事をしている。それは世界中にわかっている。それもあるし、色々考えて。

A）私と主人は同級生。大学出て２人とも勉強好きだからね。主人は大学の先生になって、私はバングラデシュのお米の研究所、あそこで研究やって２人で勉強・勉強・勉強。大学の先生は勉強しなくてはいけない。私も研究者だから勉強しなくてはいけない。それで外国でもっと高い勉強。それで２人でがんばって主人が日本から国費留学もらって、その時わたしは一緒に来なかった。私は仕事持ってますから。Bangladesh Rice Research Institute。この中にJAICAが実験設備を作って、この実験室でわたしは研究をやってます。お米の研究所。その時から日本は培養ですごく発展しました。色々レポート読んで日本に来て勉強しますと思った。その時主人日本に来て、奥さんにパスポートを取った。仕事から休みをとって、遊びにゆく。本当は心は勉強します。しかし３年だから、公務員の仕事だから。日本に来て私費留学生になった。それで主人が中澤晶子先生に話して、先生が農学部の加古先生に紹介して、加古先生のおかげで園芸で大学院生になりました。

［日本を選んで下さってありがとう。山口県と云うところは、住みよかったですか？ お友達もいっぱい出来たでしょう？］

M）それは住みやすい。みんな優しいし。私は日本に来て、今３年半か４年になってるから、今ちょっと分かって来た。みんなきれいと思った。みんな優しいと思った。いまは市営住宅に住んでるから。 みんな仲良し。前住んでたところは、今でも行ってるよ。それと子供の関係でも友達出来るよ。子供の友達のfamilyとかね。

A）（近所の）子供のおばあちゃんたちがね、とても優しい。おかげと云うか、おばあちゃんたちの。（ところで）、バングラ語でお父さんをDadi（ダディ）、お母さんをNani（ナンニ）という。日本で違うのはね、日本結婚で子供生まれたら、自分の妻にお母さんという。夫にお父さんという。質問しました。どうして日本ではそういうのですか、と。（答は）子供には、みんながいわないと耳に入らない。そういうこと。私たちはそういうacceptできない。ごめんなさいだけどね。なにかおかしい。自分の奥さんにお母さんというとか。自分のお母さんにおばあちゃんというとかね。私たちはイスラムだから。（これは）日本の習慣だから。（でも）バングラデシュでない他の留学生もちょっと変だといってる。でも、日本にも便利なこといっぱいあるよ。便利語、例えば、「どうも」とか、「いらっしゃい」とかね。「いってらっしゃい」とかいいことばいっぱいあるよ。小さい言葉で大きい意味を持ってるいい言葉がいっぱいある。そういうふうに「お母さん」ということは悪いことではない。でもわたしの頭にはそういうふうに全然理解できない。

［全部の日本人がそんなふうにいうわけではない。私の親は妻を名前で呼んだ］

M）でも90％じゃないか。山口しか知らないけど。バングラデシュでも同じ。見合いの時名前。子供生まれた時、私のお父さんがお母さんに子供の名前つけて「～のお母さん」そういうふうにいうね。主人は奥さんの名前をいつもいうけどね。（たとえば）アスマ、アスマって。（妻は普通夫を名前で呼ばないのだが）アスマは、あのね、とか私たちは同級生だから名前。それは、人間と人間関係。今の若い子供もパパ・ママっていうでしょう？あれも変わってる（変化している）みたい。バングラデシュでもお父さんの時代と変わってる。バングラデシュの中でも、街とふるさと（田舎？）では全然違う。いろんな処あるでしょ。私たち昔80年前はお父さんにバップと云う。お母さんの事はマーと云う。私たちの時代でバップはアッバになった。お母さんはアンマとなって、そのあとで、アブジ、アムジとなる。そのあとで町で一番お金持ちの人たち、パパ、ママ。だからあれはいろいろどこでもあると思う。好きなように。でも普通は、アッバ、マンマと。日本でお父さんお母さんみたいに。

［図書館のこと以外の部分も楽しいお話でした。有難うございました。］

（文責　恩知）

論文：Aktari Asma Begum, M.Tamaki, M.Tahara and S.Kako (1994)
Somatic embryogenesis in Cymbidium through in vitro culture of inner tissue of protocorm-like bodies.J. Japan Hort.Sci.63(2) ほか

Muhammad Golam Morshed, Masataka Yokota, Teruko Nakazawa, and Hisanori Konishi
Transfer of antibody against borrelia dattonii from mother to young in ddY mice. Infection and Immunity,Oct.1993,p.4147-4152 ほか

お知らせ

本館玄関にスロープが完成

以前から懸案であった本館玄関のスロープがこのほど完成し(写真)、車椅子での利用をはじめ、図書等の運搬作業にも便利となりました。

また、従来片側だけ自動化されていた入口ドアも全面自動ドアとなりました。

供用にあたり施設部をはじめ関係各位に感謝致します。

工学部版図書館利用案内の作成

三 浦 博 士

山口大学附属図書館では本館、医学部・工学部両分館を包括した「図書館利用案内」という小冊子を発行しているが、これは大学を構成する全利用者を対象にして作成されたものである。

工学部分館ではこれとは別に学生、教官、留学生と対象を限定した利用案内を作っているので、作成するに至った経緯を紹介する。

1．学生向け利用案内

工学部分館が専門課程進級者に対し、独自にオリエンテーションを始めてから歴史は浅く、それ以前は同じキャンパス内にあった夜間の工業技術短期大学部の新入生に対してのみ行っていた。

しかし、同じ山口大学の図書館といっても、工学部分館は専門図書館としての色合いが濃く、学生諸君に親しみ、理解して頂くには分館レベルでのオリエンテーションが必要ではないかとの意見があり、早速工学部分館の図書委員会と諮り、実現へ向けて歩み出すこととなった。

ところが、工学部でのオリエンテーションは学科単位で行われ、当初図書館からの呼び掛けに対し、９学科中６学科しか希望がなかった。これは図書館のＰＲ不足と、内容の希薄さに原因が在ったのではないかと推測し、その対策として工学部分館独自の学生向けの資料を作成し、しかも学生諸君に印象付けるため色紙を使用することとした。

こうしてでき上がったのが学生向け図書館利用案内である。紙面がＢ４版１枚の表裏印刷と限られているので、開館日や開館時間の案内、資料の配置の案内、貸出・返却の案内など必要最小限のことしか書くことができなかったが、それでも対象を絞ることにより中国四国地区大学図書館研究集会等でも取り上げられ話題となったように、少しでも多くの学生が注目し、内容も平易で読み易く、かつ魅力の在る紙面作りにするよう心掛けている。

2．教官のための図書館利用案内

大学図書館業務の標準化が叫ばれて久しいが、図書や雑誌の目録・分類などと比べ、図書館への資料の発注の仕方や、発注した資料が到着し図書館において受入作業を経た後資料が購入者の手元へ届くまでの手順、及び退職や異動等で研究室へ長期貸出していた資料を図書館へ返却する方法等々、個々の図書館の独自性が依然として在り標準化を行うに当たってなかなか難しい問題が多々ある。このように大学図書館においても各々の特色があるので、教官の大学間での異動はもとより、今日良く見られる様に他省庁や民間からの異動となると戸惑いが多いのではなかろうか。特に民間から異動の場合、国立大学においては会計法など国の制約が厳しく、そのためサービスの密度は同程度でも、その後の処理スピードに多少の差異が生じることがあり不思議がっておられるようである。

このことは、時として図書館員と利用者の間に我々の想像を越えた隔たりが在り、ひいてはそれが図書館との信頼関係に少なからず影響を及ぼしているのではないかと考えさせられることがあった。

この問題に対処する方法として、館員同士で検討した結果、前述の学生用の利用案内が参考となって、教官を対象とした利用案内を作る案が出され、早速行動に移ることとなった。

教官の場合、学生同様図書館の開館日や開館時間の案内のほか、図書や雑誌の購入の仕方、外部データベースの利用方法、当館にない文献の入手法等校費を使用して行われるサービスや、学生用図書の推薦や規則等の紹介など工学部分館の管理・運営に関

お知らせ ……工学分館

開館時間の延長について

工学部分館では、９月より夜間開館を１時間延長し21時まで開館することとなりましたので、ご利用ください。

すること、並びに館内施設や視聴覚機材の利用方法、工学部発行の研究報告の案内等工学部全体に係わることなど沢山のことを盛り込む必要があった。従って、紙面も相当数必要としたが、学生向けの利用案内同様、できるだけ簡潔でかつ平易な表現をとの方針で作業に取り組むこととなった。今では、残念なことに表題こそ変更したが、同じ考えの下に改訂版を出すことができ、更に第3版に向けて編集作業をしているところである。

3．留学生のための図書館利用案内

山口大学における国際交流関係のうち、平成5年12月の学報によると外国人研究者受入数は本年10月までで28名、外国人留学生は122名となっており、その内約半数の12名、58名を工学学部が占めている。

外国人留学生は一定期間、日本語教育を受講しているので、我々の説明を理解してもらっていると思っているが、外国人研究者や外国人の教官となると、特に後者の方は英語は堪能であるが、日本語は理解できない方が多い。その彼等らが閲覧カウンターへやって来て、早口の英語で職員に質問を投げ掛け、職員を困らせるというケースが度々あった。

そこで先の例にならって、英語による利用案内を作成することを決意した。まず、英語に堪能な職員が、叩き台を作り、それを館職員で検討を加え、これを最近外国へ留学された学部内の若手教官の方へ無理をいって校閲をお願いした。更に我々にとってラッキーだったのはこの教官を通じて、英国人の校閲をサービスで受けることができたことである。

こうして英語版の図書館案内ができ上がったわけであるが、時期を同じくしてあの「ロゼッタ・ストーン」の発想を授けてくれた同志があった。早速、当時の分館長と相談したところ、このアイデアを取り入れ、特に工学部へ来られた外国人の研究生や教官に英語版図書館利用案内を彼等の母国語に対訳して頂く作業を依頼することとした。

これではずみがついたというか、分館長が学会等で外国出張した機会や、学内の先生方を通じて外国人へ依頼したり、更には図書館へ利用するために来た外国人留学生に図書館員が直接お願いするなどして翻訳に精を出し、今では英語、中国語、韓国語、

本学関係教官寄贈図書 (受入順)

(本　館)

西岡　道夫（教養部教授）

Santilli's Lie－isotopic Generalization of Galilei's and Einstein's Relativities, by M. Nishioka et al. Athens, Kostakaris, 1991

西口　毅（教養部教授）

生活、社会、環境、生命と物質 1994年度版　西口毅著

阿野　政晴（教養部非常勤講師）

移民史から見た松岡洋右の少年時代　阿野政晴著　(非売品) 1994

古賀　秀男（教養部教授）

チャーティスト運動の構造　古賀秀男著　ミネルヴァ書房 1994

道廣　泰倫（教養部教授）

現代法学16講　道廣泰倫著　法律文化社 1980

現代法学講義　道廣泰倫.藤井浩二共著　法律文化社 1992

牧田　登之（農学部教授）

家畜発生学 Drew M. Noden, Alexander de Lahunta共著, 牧田登之監訳　学窓社 1992

森　茂暁（教養部教授）

佐々木導誉　森茂暁著　吉川弘文館 1994 (人物叢書)

(工学部分館)

大原　資生（名誉教授）

第6回日本地震工学シンポジウム 1982

第8回　〃　1990

Proceedings of the 8 th World Conference on Earthquake Engineering.(8 vols.) Prentice Hall, 1984

水田　義明（工学部教授）

地下環境制御とエキスパートシステム　上・下　水田義明監修　海山堂 1993

ロシア語等を始めとした15ヶ国語による留学生のための図書館利用案内ができており、当館を利用する外国人の方へ配布し、少しでも役立てばと願っている。

また、この留学生のための図書館利用案内は中国四国地区大学図書館研究集会でも紹介し、今まで2～3の大学へ配布しているが、なかなか好評を得ている。

蛇足ではあるが、我々職員の語学力不足も災いしてか手書きの翻訳原稿を受け取り、これをワープロで清書した苦労は今でも職員の間で語り草となっている。また、当初は改訂版のことが念頭になかったので、各々が独自のワープロ機種で文章を作成したことが、今となっては悔やまれる次第である。

今迄述べたような各種の図書館利用案内が、図書館職員の手で、しかも安価に見栄えよく作ることができたのは、第1に館員の協力体制が得られたこと、第2にワープロ・ソフトの機能の向上、第3にカラー複写機の導入が挙げられる。

今後は、図書館サービスの変化に伴い内容を逐次改訂していく必要があるが、何より大切なことは利用者のための図書館案内を作るということで、このことを我々の意識の中に常に持ち続けることである。そして、この図書館案内がより多くの利用者の目に触れ、手助けになれたら幸いである。

（工学部分館整理係長）

平成6年度附属図書館関係各種委員会名簿

（平成6年6月1日現在）

◎印は委員長

◇運営委員会

◎ 板垣　忠（館長）
岸田令次（医学部分館長）
中川浩二（工学部分館長）
豊澤　一（人文学部）
岩部浩三（人文学部）
林　恒徳（教育学部）
佐々木洋城（教育学部）
名畑　恒（経済学部）
石田成則（経済学部）
加納　隆（理学部）
岩尾康宏（理学部）
中村和行（医学部）
粟井郁雄（工学部）
川島東洋一（農学部）
柴田　浩（農学部）
道廣泰倫（教養部）
青島　均（教養部）
森松光紀（附属病院）
松村澄子（医療短大）

◇本館図書委員会

◎ 板垣　忠（館長）
高木智見（人文学部）
滝野正二郎（人文学部）
佐々木洋城（教育学部）
福田隆眞（教育学部）
名畑　恒（経済学部）
石田成則（経済学部）
加藤崇雄（理学部）
大和田正明（理学部）
川島東洋一（農学部）
柴田　浩（農学部）
道廣泰倫（教養部）
青島　均（教養部）
田尻英雄（事務部長）

◇医学部分館図書委員会

◎ 岸田令次（分館長）
中村和行（基礎）
森松光紀（臨床）
佐田英明（基礎・助教）
小田祐胤（臨床・助教）
松村澄子（医療短大）

◇工学部分館図書・研究報告委員会

◎ 中川浩二（分館長）
専徳博文（機械）
上田　満（社会建設）
松尾直人（電気電子）
渡邊孝博（知能情報）
笠谷和男（機能材料）
森垣和夫（共通）

◇図書館機械化推進委員会

◎ 田尻英雄（事務部長）
河﨑戎三（情報管理課長）
川野茂美（情報サービス課長）
安田浩規（図書館専門員）
萬代英夫（総務係長）
吉光紀行（受入係長）
江見仲子（目録係長）
松本美智子（運用係長）
恩知陽子（参考調査係長）
井関　章（相互協力係長）
上田照賀（医・整理係長）
吉野君子（医・運用係長）
三浦博士（工・整理係長）
横山茂樹（工・運用係長）
ワーキンググループ・メンバー

・ワーキング・グループ

◎ 川野茂美（情報サービス課長）
佐藤　仁（総務係）
赤野　徹（受入係）
岡田　隆（目録係）
中川秀夫（運用係）
田中俊二（参考調査係）
河本香代子（相互協力係）
高田美栄子（医・整理係）
渡部哲夫（医・運用係）
三好静男（工・整理係）
恩知陽子（参考調査係長）

◇図書館報編集委員会

◎ 川野茂美（情報サービス課長）
安田浩規（図書館専門員）
山田千恵子（目録係）
井関　章（相互協力係長）
吉野君子（医・運用係長）
岩戸友行（工・運用係）
恩知陽子（参考調査係長）

人事異動

[併　任]	(6.4.1)	板　垣　　忠	附属図書館長（経済学部教授）
[昇　任]	(6.4.1)	田　尻　英　雄	事務部長（熊本大学附属図書館から）
		安　田　浩　規	図書館専門員（情報サービス課運用係長から）
		松　本　美智子	情報サービス課運用係長（同課相互協力係から）
[配置換]	(6.4.1)	萬　代　英　夫	情報管理課総務係長（学生部から）
		西　垣　昇　治	〃　受入係（東亜経済研究室から）
		大　澤　晴　昌	（情報管理課受入係）東亜経済研究室へ
		河　本　香代子	情報サービス課相互協力係（同課運用係から）
	(6.5.1)	重　本　日登美	（情報管理課目録係）情報サービス課運用係へ
		田　村　小百合	（情報サービス課運用係）情報管理課目録係へ
		渡　部　哲　夫	（医学部分館整理係）医学部分館運用係へ
[採　用]	(6.4.1)	三　好　恒　光	情報サービス課運用係
		田　村　小百合	〃
	(6.5.1)	中　村　繁　子	医学部分館整理係
[退　職]	(6.3.31)	中　島　周　二	（事務部長）
		松　本　敬　吉	（図書館専門員）
		水　津　克　規	（情報サービス課運用係）

日　　誌 （平成6年3月－7月）

[本館]　＊この期間の来館者は14名。岐阜大、東京医科歯科大ほか。

3.12　山口県図書館協会大学・短大・高専部会（平成5年度第3回）　本館より5名
3.17　第44回中国技術情報研究会（広島）　松本美智子（相互協力係）
4.11～12　新入生オリエンテーション（各学部ごと）
4.18～19　第42回中国四国地区大学図書館協議会総会、及び第21回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会（広島）　板垣館長・田尻事務部長・川野情報サービス課長
4.25　第67回山口大学附属図書館運営委員会
5.25　館報委員会（於医学部）
5.31　平成6年度国立大学附属図書館事務部課長会議（東京）田尻事務部長・川野情報サービス課長
6.10　図書館ガイダンス（教育学部初等科生活B）　安田専門員担当
6.23～24　第41回国立大学図書館協議会総会（伊豆長岡）　板垣館長・田尻事務部長・河崎情報管理課長
6.27　山口県図書館協会総会（県立図）　田尻事務部長・恩知参考調査係長・江見目録係長
7.7　機械化推進委員会
7.15　平成6年度中国地区著作権セミナー（広島）　井関相互協力係長
7.26　機械化推進委員会

[医学部分館]

2.2　医学部分館図書委員会
4.11　医学部専門1年生、及び医療技術短期大学部新入生オリエンテーション
4.18　医学部大学院基礎コース文献検索講習会
4.25　医療技術短期大学部看護学科3年生文献検索講習会
5.26～27　第65回日本医学図書館協会総会（北里大学）　岸田分館長・上田整理係長
7.11　医学部分館図書委員会
7.13～15　日本医学図書館協会主催第1回継続教育コース・医学図書館研究会（広島）　上田整理係長
7.14～15　著作権セミナー（広島）　渡部哲夫（運用係）
7.18・20・25・26・28 夏季文献検索講習会
7.21　高校生施設見学来館

[工学部分館]

2.8　図書・研究報告委員会
4.5　編入生オリエンテーション
4.7　大学院工学研究科博士後期課程オリエンテーション
4.11　工学部2年進級生、夜間主コース新入生オリエンテーション
5.27　図書・研究報告委員会
7.18　図書・研究報告委員会

「雑誌記事索引」－カレント版－CD－ROMをご利用ください

本館では、10月から「雑誌記事索引」をＣＤ－ＲＯＭで検索できるようにいたしました。

これまでは冊子体のものだけしかありませでしたが、新しいＣＤ－ＲＯＭ版はかなり使いやすい面がありますのでご活用頂きたいと思います。

「雑誌記事索引」は、国内で刊行され国立国会図書館が収集した雑誌のうち、記事採録対象誌として指定する約3,300誌の記事に関するデータを収録しています。

ＣＤ－ＲＯＭ版「雑誌記事索引」の特色をいくつか挙げて見ます。

(1) 冊子体では「人文・社会編」と「科学技術編」に分かれているものを、同時に検索できます。（冊子体の場合、主題によって、それぞれを調べる必要がありました。）

(2) 数年分を一挙に検索できます。今回受入れたものは、1990～1993年分を収録しています。

(3) メニュー検索とコマンド検索ができます。

検索項目は、「論題中の単語」「論題名」「著者名」「分類コード」「雑誌名」「ＩＳＳＮとＩＳＢＮ」「請求記号」です。これらを項目間および項目内で数個キーを指定し、and、or、not検索をしますが、必要ならこの検索結果を「刊行年月」と「雑誌巻号」でしぼり込むことも可能です。「論題中の単語」その他いくつかの項目では漢字・ヨミ、前方一致・完全一致で検索できます。

このＣＤ－ＲＯＭ版の実際の使い方は、とても簡単です。また「マニュアル」もありますので、参考調査係にお尋ね下さい。

なお、冊子体の「雑誌記事索引」は、人文・社会編が1948年分から、科学技術編（もと自然科学編）は1950年分からあり、ともに現時点で1994年3月分までが参考二次資料の書架に備えられています。ＣＤ－ＲＯＭ版と併せてご利用願います。

お願い

学内研究資料の収集と利用について

著作図書のご恵贈をお願いします

本学では大学紀要類のほかに、学部研究室、個人においても、多くの研究資料が種々の形態で刊行されていると思われます。これらの研究資料について、学内外から貴重な参考文献として利用したい旨、図書館へ多くの依頼が来ています。（複写依頼が大多数です）

図書館では、このような研究資料を著者、出版者のご好意によりご寄贈いただき効率的に利用者に提供しておりますが、現状ではまだ多数の研究資料が未所蔵であります。

既刊のものを含めまして今後公表されます研究資料について、是非とも図書館へ１部ご恵贈下さいますようお願い申し上げます。

研究資料のご送付、ご連絡は図書館情報管理課受入係（内線783）あてお願いいたします。

平成５年度図書館統計表

Ⅰ 蔵 書 数（平成６年３月31日現在）

区分	図書（冊数）			雑誌（種類数）		
	和	洋	計	和	洋	計
本館	786, 728	306, 314	1, 093, 042	12, 565	4, 730	17, 295
医学部分館	81, 144	74, 561	155, 705	1, 820	1, 912	3, 732
工学部分館	82, 695	50, 742	133, 437	1, 431	1, 342	2, 773
計	950, 567	431, 617	1, 382, 184	15, 816	7, 984	23, 800

Ⅱ 年間受入数

区分	図書（冊数）			雑誌（種類数）		
	和	洋	計	和	洋	計
人文学部	2, 069	921	2, 990	216	168	384
教育学部	4, 635	974	5, 609	397	245 ~~2, 145~~	642
経済学部	3, 677	1, 186	4, 863	1, 268	535	1, 803
理学部	234	840	1, 074	42	204	246
農学部	681	309	990	151	126	277
教養学部	3, 299	1, 497	4, 796	205	296	501
学生相談所					5	5
保健センター	8		8	8	2	10
埋蔵文化財資料館	1		1	6		6
本館	3, 285	720	4, 005	1, 819	250	2, 069
小計	17, 889	6, 447	24, 336	4, 112	1, 831	5, 943
医学部分館	2, 007	2, 102	4, 109	821	659	1, 480
工学部分館	1, 807	1, 889	3, 696	647	555	1, 202
合計	21, 703	10, 438	32, 141	5, 580	3, 045	8, 625

Ⅲ 利用統計

区分	開館日数（日）		入館者数（人）			館外帯出者数（人）			館外帯出冊数（冊）		
	時間内	時間外	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計
本館	239	190	225, 075	47, 409	272, 484	23, 144	7, 451	30, 595	43, 750	13, 174	56, 924
	一日平均		942	250		97	39		183	69	
医学部分館	246	243	39, 136	29, 266	68, 402	8, 620	7, 879	16, 499	17, 627	15, 928	33, 555
	一日平均		159	120		35	32		72	66	
工学部分館	237	190	106, 483	27, 241	133, 724	10, 986	5, 086	16, 072	19, 196	9, 166	28, 362
	一日平均		449	143		46	27		80	48	

（入館者のうち、学外者は本館355、医分館1484、工分館161）

Ⅳ 文献複写（件数）

区分		学内者			学外者	他大学等			合計
		私費	公費	小計	私費	私費	公費	小計	
電子式複写	本館	3, 915	9, 016	12, 931	287	1, 945	1, 950	3, 895	17, 113
	医学部分館	8, 046	9, 628	17, 674	1, 542	3, 684	2, 398	6, 082	25, 298
	工学部分館	73	29, 586	29, 659	169	134	1, 379	1, 513	31, 341
	合計	12, 034	48, 230	60, 264	1, 998	5, 763	5, 727	11, 490	73, 752
印画引伸	本館	0	0	0	0	0	0	0	0

編集・発行 山口大学附属図書館 〒753 山口市大字吉田 電話（0839）22－6111 内線788